

平成29年度 動物実験に関する自己点検・評価報告書

椙山女学園大学動物実験委員会

平成30年 9月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規準

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する機関内規準が定められている。 □ 機関内規準は定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 機関内規準が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 椋山女学園大学動物実験等に関する取扱規準(平成23年10月31日施行)
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 機関内規準が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当しない。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 □ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 椋山女学園大学動物実験等に関する取扱規準 ・ 椋山女学園大学動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 椋山女学園大学動物実験等に関する取扱規準に基づき、椋山女学園動物実験委員会が設置され適正に運営されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当しない。

3. 動物実験の実施体制

(動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告の実施体制が定められているか?)

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 □ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 椋山女学園大学動物実験等に関する取扱規準
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告の実施体制が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当しない。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

(遺伝子組換え動物実験、感染動物実験等の実施体制が定められているか)

1) 評価結果 ■ 該当する動物実験の実施体制が定められている。 □ 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 該当する動物実験の実施体制が定められていない。 □ 該当する動物実験は行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 椙山女学園大学生生活科学部組換えDNA実験安全委員会規準
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当しない。

5. 動物実験の飼養保管の体制

(機関内における実験動物の飼養保管施設が把握され、各施設に実験動物管理者が置かれているか?)

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 椙山女学園大学動物実験等に関する取扱規準
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 椙山女学園大学動物実験等に関する取扱規準において明文化されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当しない。

6. その他(動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果)

該当しない。

Ⅱ. 実施状況

1. 動物実験委員会

(動物実験委員会は、機関内規程に定めた機能を果たしているか?)

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 椙山女学園大学動物実験委員会議事録
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) ・ 椙山女学園大学動物実験等に関する取扱規準に基づき、適正な活動を実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当しない。

2. 動物実験の実施状況

(動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が実施されているか?)

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 椙山女学園大学動物実験計画書 ・ 椙山女学園大学動物実験(終了・中止)報告書
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当しない。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況
(当該実験が安全に実施されているか?)

1) 評価結果
<input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料
・相山女学園大学生生活科学部組換えDNA実験安全委員会規準
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)
遺伝子組換え動物を使用する実験、感染動物実験、放射線実験は行われていない。
4) 改善の方針、達成予定時期
該当しない。

4. 実験動物の飼養保管状況
(飼養保管は飼養保管手続書により適正に実施されているか?)

1) 評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料
・相山女学園大学飼養保管マニュアル
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)
飼養保管マニュアルに則して実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期
該当しない。

5. 施設等の維持管理の状況

(機関内の飼養保管施設は適正な維持管理が実施されているか？ 修理等の必要な施設や設備に、改善計画は立てられているか？)

1) 評価結果 ■ 基本指針や飼養保管施設の基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・施設維持管理報告書
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 飼養保管施設や動物実験室は、施設管理者により維持管理されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当しない。

6. 教育訓練の実施状況

(教育実験に関わる教育訓練が実施されているか？)

1) 評価結果 □ 基本指針に適合し、適正に実施されている。 ■ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・相山女学園大学における動物実験教育訓練(学生実験)の教育訓練の実施状況 平成29年度 実施回数 3回、受講人数 124人 ・学生向け講習会資料
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 学生への教育訓練は行われているが、実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者及び動物実験委員会委員への教育訓練が行われていない。
4) 改善の方針 該当しない。

7. 自己点検・評価、情報公開

(基本指針への適合性に関する自己点検・評価、関連事項の情報公開を実施しているか?)

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に自己点検・評価、情報公開が実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験管理者から提出された、自己点検評価チェック表
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。 自己点検、評価を行いホームページで公開している。
4) 改善の方針、評価達成時期 該当しない。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項およびその結果)

1) 椋山女学園大学動物実験委員会の構成 椋山女学園大学動物実験等に関する取扱規準 第8条第1号に掲げる委員:教授3名、准教授1名 第8条第2号に掲げる委員:教授1名
2) 平成29年度の椋山女学園大学における動物実験計画書の審査状況(別紙1)
3) 平成29年度の椋山女学園大学における実験動物種毎の使用保管数(別紙1)

(別紙1)

平成29年度の椋山女学園大学における実験動物種毎の飼養保管数

学部	ラット	計
生活科学部	72	72

平成29年度の椋山女学園大学における動物実験計画書の審査状況

動物実験計画書						
学部	申請	承認	新規	継続	終了	中止
生活科学部	1	1	—	1	1	—

※終了・中止届が提出された全計画書について、結果報告書の提出を確認

動物実験委員会委員

(1) 動物実験等に関して優れた識見を有する者

所属学部: 生活科学部管理栄養学科 専門分野: 食品科学

(2) 実験動物に関して優れた識見を有する者

所属学部: 生活科学部管理栄養学科 専門分野: 生化学

(3) その他学識経験を有する者

所属学部: 国際コミュニケーション学部表現文化学科 専門分野: 哲学